

コミュニティ・スクールだより

氷川町（組合）
コミュニティ・スクール
連携協議会事務局 上野
平成29年9月13日
発行 第2号



氷川町で初めて・・・地域と学校の防災訓練 北野津地区と竜中・竜東小学校コミュニティ・ スクール合同の避難訓練を実施！



趣旨

昨年の熊本地震では、氷川町でも多くの方が罹災され、各学校も避難所となりました。このような防災についての関心が高い時に、地域での避難訓練を行い、地域の防災意識を高め、地域住民の安全を確保することは、重要なことです。また、土・日や長期休業中・夜間に家庭や地域で過ごしている子どもたちの安全を確保することや地域の防災に子どもたちが関わることで地域の防災力を高めていくことは、地域とともにある学校の役割でもあります。

竜北中及び竜北東小コミュニティ・スクールと北野津地区が連携して避難訓練を行うことにより、地域で子どもたちの安全を守る取組及び防災力向上を目指します。〈北野津地区実施計画より掲載〉

9月3日（日）に、北野津地区と竜中・竜北東小コミュニティ・スクール合同の避難訓練が行われました。9時15分に防災無線や拡声器で「北野津地区の皆さんへ連絡します。訓練地震発生。北野津地区の子どもたちは北野津公民館に避難してください。」と呼びかけがあり、避難を開始。子どもたちが集合した後、点呼が行われ、中学生が点呼のお手伝いをしました。

9時45分からは、公民館で、講話が行われました。勝枝区長のあいさつ、教育長のあいさつ、竜北中コミュニティ・スクール伊藤会長のあいさつの後、高山隊友会会長より「ミサイル着弾時の対処について」・鏡消防署の職員より「地震発生時の対処について」お話がありました。最後に、竜北東小コミュニティ・スクール岩田会長より、閉会のあいさつが行われました。この訓練を通して、改めて子どもたちが地域の皆さんに見守られていることを実感しました。ご尽力された関係機関の皆様大変お世話になりました。

この取組が氷川町内の他地区でも広がっていくことを願います。



集まった子どもたちの点呼の様子



真剣に話を聞く子どもたち



爆風から身を守るにはどうする・・・



勝枝区長の訓練についてのお話

宮原小コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の紹介

教育目標

自ら考え、正しく判断し、生き生きと学ぶ、宮っ子の育成



宮原小の教育目標は、【自ら考え、正しく判断し、生き生きと学ぶ、宮っ子の育成】です。校長先生からは、「学校の課題は、子どもたちは素直で明るいけれど、どの子にも基礎学力をつけさせ学力保障をしていきたい。学びに向かう力や人間性を育て、社会や世界とかがわっていけるようにしたい。」と提案がありました。

宮原小のCS委員さんは、商工関係者1名 婦人会長1名 子ども記者クラブ関係者1名 PTA関係3名 地域住民1名 地域コーディネーター1名 行政2名 教職員4名の計14名のメンバーです。これまで第1回（6月23日）第2回（7月27日）の会議がありました。協議の結果、本年度は、下記の取組をすることになりました。

I 【学力保障】の取組

①基礎学力の定着にむけて

“輝塾”を行い、希望する子どもたちに放課後等を活用して子どもの居場所づくりをします。CS委員や教職員が協力して校長室で学習の支援をします。1学期に5回実施しました。

夏休みには、パワーアップ学習会も行いました。夏休みの学習会には、特別支援教育支援員の先生や中学生と中学校の先生方も応援に来られました。中学校の生徒や先生とふれ合うことは、中1ギャップの解消にもつながります。



「輝塾（かがやきじゅく）」での子どもたちの学びの様子

②学びに向かう力・人間性の育成

三神宮祭りやフェスタへの参加を通して子どもと大人の交流を図り、町の自然・伝統・文化や歴史を子どもたちに学んでもらいます。学校運営協議会は、子どもたちが祭りに参加する支援を行うことや、ふれあいフェスタに主体的に関わっていきます。



昨年の三神宮祭り
子ども会の神輿で
祭りに参加



昨年のふれあいフェ
スタ CS委員が
講師を務める

II 家庭教育支援の取組

①学校運営協議会は、民生児童委員や家庭教育支援員の方々と連携し、長欠の子どもたちに何か支援できないか、地域で何かできないかを考えていき、取組につなげたいと思っています。

②親の学びプログラムを実施して、親同士のつながりを創っていく計画です。

学校と地域が目標を共有し、連携・協働しながら、学校や地域を創り上げていく！